



〈こども版〉 としょかんだより No. 329

2012年

わくわく本だな

1月号

富山市立図書館

今月のおすすめ



★ = 1・2年
 ★★ = 3・4年
 ★★★ = 5・6年

—あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします—

「おはなししましょう」 (えほん) 谷川 俊太郎／作 福音館書店



「あのね、あのね、おはなししましょう。」
 このえほんは、ふきだしや色でいろいろなおはなしをあらわしています。「すっきり」や「だんまり」ってどんな形になるのかな？ 見ていると、お話が聞こえてきそうです。

「レンタルロボット」 ★★ 滝井 幸代／作 学研教育出版

ひとりっこの健太は、ぐうぜん見つけたレンタル・ショップで、弟ロボットをかりました。弟を手に入れて喜ぶ健太でしたが、そのうち、「お兄ちゃんだからがまんしなさい。」と言われることが多くなります。健太は、弟を店に返そうと思い始めました。



「モーグルビート！」 ★★★ 工藤 純子／作 ポプラ社



いちこ
 一子は雪深い山で育ち、スキーが得意です。東京から来た、親せきの美鈴が、空中でポーズをきめる競技“モーグル”を練習するのを見て、自分もやってみたくなりました。まねをしてすべってみましたが、着地に失敗して、美鈴にばかにされてしまいます。

あたらしくはいった本

えほん

「ハエのアストリッド」 マリア・ヨンソン／作 評論社



ハエのアストリッドには、兄弟が44ひきもいます。おねえさんとして、いつも兄弟のめんどうをみていますが、一人であそびに行きたいときもあります。ある日、人間のだいどころであそんでいるうちに、れいぞうこへ入れられてしまいました。

ものがたり

「あかいくま」 ★ 中脇 初枝／作 講談社

りかちゃんは、じぶんを赤いくまだとおもっていました。かぞくがいつもいそがしくて、ずっとくまのぬいぐるみといっしょだったからです。ある日、おかあさんから「人間だ」ときいてびっくりしました。かがみを見ても、赤いくまにしか見えません。



「ココロ屋」 ★★ 梨屋 アリエ／作 文研出版



おこりっぽいひろきは、今日も友だちを泣かせてしまいました。先生に「ココロを入れかえなさい」とおこられ、教室をとび出します。そこへやってきたのは、ふしぎな「ココロ屋」でした。自分のココロをちがうココロと取りかえることができるというのです。

「^{おか}丘の木ものがたり」 ★★ 森山 京／作 講談社

大きなカシの木がある丘の上は、みんなが大すきな場所です。ある日、町に見しらぬくまのおじさんがやってきました。きつねのコンチたちに“丘の木”のことを聞いたり、調べたりしています。どうやら、カシの木を切つてホテルを建てようです。



ものがたり

「むこうがわ行きの切符」 ★★★ 小浜 ユリ／作 ポプラ社



健斗は友達とけんかして、一人だけで電車に乗りました。たまたま持っていたのは、お祭りでもらった景品、“好きな場所に行ける切符”。じょうだんのつもりで「未来に行きたい」と、つぶやいてみると、本当に“2043年”へタイムスリップしたのです。

「マジックアウト ① アニアの方法」 ★★★ 佐藤 まどか／作 フレーベル館

エテルリア国では、だれでも生まれた時から魔法の才能があります。でも、アニアだけはなぜか魔法が使えません。そんなある日、国中の魔力が消え、電気も止まってしまいました。アニアは大好きな本を読んで、自然による風力発電を思いつきます。



ちしきの本

「カモのきょうだいクリとゴマ」 なががわ ちひろ／作 アリス館



作者の一家は、親鳥がいないカルガモの卵を拾い、2羽のひなをかえました。名前はクリとゴマです。泳ぐ練習やザリガニとりなど、野生にかえるくんれんをしながら2羽は大きくなっていきます。3か月後、いよいよ池に放すときがきました。

「ぼくの仕事場は富士山です」 近藤 光一／作 講談社

近藤さんは、富士山の登山ガイドです。富士山には、いろいろな登山客がやってきます。山でプロポーズをする人、なくなった息子さんを思いながら頂上をめざす人。近藤さんは、ツアーの人数を少なくして、一人一人の気持ちを考えて案内しています。



こんげつのとくしゅう

龍・ドラゴンの本



今年は、^{たつどし}辰年です。

「たつ」は、日本や中国では、水をあやつる神、^{りゅう}龍として知られています。

「ヤンメイズとりゅう」 (えほん) 松居 直／再話 福音館書店

ヤンメイズは、りゅうにさらわれた姉さんをたすけにでかけます。

「小さな王さまとカッコわるい竜」 ★★ なかがわ ちひろ／作 理論社

飛べない小さな竜は、いつも王さまのあとをついてきました。

「孤島のドラゴン」 ★★★ レベッカ・ラップ／作 評論社

3人のきょうだいがある孤島のどうくつで出会ったのは、三つの首を持つ竜でした。

「ドラゴン学総覧」 (ちしきのほん) ドウガルド・A. スティール／作 今人舎

龍やドラゴンの伝説は、世界中にあります。各地のドラゴンの体のとくちょうや性格、食べ物がちがいなどがよくわかる本です。

シリーズしょうかい



「ムジナ探偵局」シリーズ 1～7 (ものがたり)

★★ 富安 陽子／作 童心社

ムジナ探偵局にまいこんでくるのは、いっふうかわった事件ばかり。依頼人や犯人は、妖怪や幽霊です。少しとぼけたムジナ探偵が、ふしぎな事件をかいけつします。

「なぞの挑戦状」

ルビーの指輪がぬすまれ、「ムジナ探偵によろしく」という挑戦状が残されていました。現場によばれた探偵は、まるまる太ったねこがあやしいと感じます。

「闇に消えた男」

ある屋敷から、一人の客が消えました。けれど、どこからも出たあとがありません。探偵は、「阪崎」という客の名前から、何かをひらめきます。

< 編集・発行 >

富山市立図書館 富山市丸の内1丁目4-50 電話 076-432-7273